

第4回 第14期小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成27年3月23日（月）午後6時30分～午後8時45分
- 開催場所 小平市役所 601会議室
- 出席者 椎名委員、山田委員、早田委員、松根委員、佐野委員、田中委員
川島委員、菊地委員、丹治委員、千葉委員、根津委員、宮村委員（順不同）
- 傍聴人 3名
- 議題 (1) 第14期の検討課題について
(2) その他
- 配付資料 (1) 第4回 第14期小平市緑化推進委員会次第
(2) 水車公図等関係資料 5部

会議の要旨

委員長

本日の配付資料について簡単に説明してほしい。

事務局より配付資料について説明があった。

委員長

資料（2）水車小屋絵図はいつ頃の資料か。この引水はどこから引いているのかというのは、場所を検討するのが難しいと思う。

事務局

年代についてはわからない。

委員

資料（2）の水車小屋配置図P228の工場と書かれているものと、P229に記載のある図面側とは、同じものか。

事務局

おそらく同じものであると思う。

委員長

詳しい場所まで特定するのは難しい。一般的な小平市の水車の公図だと思う。そのあたりがわかったら教えてほしい。

本日は、各委員から用水路や雑木林など市内の見所や良い所を写真やデータ等で頂いたので、スクリーンに投影し、各委員に説明してもらおう。

—各委員より用水路等の写真について説明があった。—

また、下記のとおり各委員より要望や質問があった。

委員

大門橋緑道付近の用水路の落ち葉が特に気になる。また、水が流れていない箇所には、水を流してほしい。朝鮮大学校前の上水公園付近の新堀用水は、鉄製の土留めがあったので、景観上ここは木の方が好ましいのではないか。

事務局

上水公園付近の新堀用水については、コンクリート製のものを敷設している。理由としては、平成25年8月に用水路に約120mの亀裂が生じ、水が流れない状態になった。半年程かかったが、土質調査と検討を重ねた結果、水を浸透させない形が望ましいという結果になったので、コンクリート製のU字溝を敷設したという経緯である。その後、U字溝側面のコンクリートが露出するため、景観があまり好ましくないということで、今年度から景観パネルをはりつける等で対応している。

委員

仲町付近の小川用水で大きな鉄のパイプのようなものを見かけたが、これは何か。

委員長

昔の排水ではないのか。用水路にはこのようなものが、他の箇所にもある。

委員

親水公園やお寺の中を通っている用水もあり、築堤を見ることができる箇所もある。小平市内でも中々見ることができない。今後水車をつくるなら、中央公園付近の新堀用水あたりがいいのではないかと考えている。

委員

天神町1丁目付近の小平第2小学校の通学路となっている用水路で、ザリガニがとれる箇所がある。生き物にとっても魅力的な場所であった。ここは、小川用水なのか。

事務局

大沼田用水だと思う。

委員長

昔の水門等を復活させるとおもしろいのではないか。また、津田塾大学付近の新堀用水には、橋が多いがおそらくなにか理由があると思う。野火止用水の九道の辻のエノキは名物になると思う。樹形もよく、まだ大きくなるのではないか。

委員

なんとか水の流れていない用水に水を流すという方法はないのか。大門橋緑道は住宅地と、道路の間に用水があったはずだが、今は他のものになっている。とにかく大門橋緑道付近に水が流れたらいいと思っている。

委員長

大沼田用水は大沼町にあるのか。水は流れているのか。

事務局

大沼田用水は大沼町に流れていっている。ほぼ下流まで流れている状況である。

委員

日によって用水路の水位が異なるのはなぜか。

事務局

各用水路には、いくつかの分岐点がある。時期によっては、枝や落ち葉などのゴミが堆積することで、詰まってしまったり、流れが滞ってしまうなど、水位が変化してしまうことは、ほぼ毎日発生している。

委員

用水が流れていないのは、新小金井街道から東側だと思う。なんとか対策をして、通水できれば良いのではないかと考えている。

委員長

通水率はどの程度のものか。

事務局

全体約50kmあるうち、約34kmに通水があり、約70%である。

委員長

全部とまでは言わないが、1%ずつでも通水を伸ばすことができれば良いと思う。

委員

将来の活用方法として、災害時に用水路の水を活用するということもあるので、難しいのではないかな。

委員長

水が流れていないところは、玉川上水と用水をまぜるということも考えられるのではないかな。新小金井街道より東側については、そういった方法もひとつの手だと思うし、通水のためにあらゆる工夫が必要になってくるのではないかなと思う。用水路は市の財産であるが、玉川上水は東京都水道局の財産である。いまの水を増やすというのは、中々難しい。水は沸いてでてくるわけではない。ある水をうまく活用するしかないだろう。

委員

井戸水というのは、小平でもかなりの数が今も現存しているのではないかな。どのくらいあるのかな。

事務局

震災用井戸として登録されている井戸については、検査を実施している。おそらく結構な数があるのではないかなと思う。

委員

災害時などは、マンション等のトイレの水がなくなってしまうことが考えられる。実際に、井戸を掘りたいという方も多くいる。

委員長

大きい井戸を作るには様々な規制があると思うので、中々難しい。

事務局

小平市内にも水道局の井戸はあると思うが、そこからどのくらいの分量が組み上げられているかはわからない。

委員

用水路の安全対策については何か講じているのか。事故などはあるのか。

事務局

特にないと思う。

委員

ニュースで新潟県の用水路で事故が起きたのを見たことがあるので、小平市において用水路の安全対策はどうなっているのか、心配になった。

委員

今から50～60年前には、農家の方が溺れて、亡くなったということは聞いたことがある。水量が多かったときはそういったこともあったのではないか。

委員

大雨が降ったときなどに、2、3歳の子どもが用水路に落ちた場合は、亡くなる可能性がないとは言えない。

委員長

子どもは10cmの水位があれば溺れる可能性があるとも言われている。

委員

事故が発生する可能性があるということを頭に置いておくだけでもよいと思う。

委員長

確かに安全対策は万全にする必要はあると思う。

事務局

事故がないとは言いきれないが、大雨時は上流側で水量を調節したり、橋等をつくる場合は、転落防止柵を設置したりと安全に配慮し、維持管理を行っている。

委員長

今日委員の皆さんからでた意見を集約して、次回以降に委員の皆さんに提案していきたいと思う。